

# 市議会だより Vol.10

## 岡山市議会議員 高橋 雄大 (発行元：岡山市議会おかやま創政会)

### ごあいさつ

岡山市議会議員の高橋雄大です。平素より私の議会活動にご理解をいただきまして、誠にありがとうございます。

「平成30年7月豪雨」は平成の最後の夏にして最悪の水害となり、私たちの岡山市においても各地で河川の決壍、越水による甚大な家屋浸水被害、土砂崩れなどが発生しました。危機管理の見直し、被災された皆様へ寄り添う行政としてのあり方、今後の復興への取り組み、そして将来起こりうる自然災害への徹底した備えなど、あらゆる角度からの議論、具体的な対策が急務です。

また、政令市である岡山市においてもオリンピック・パラリンピックが開催される2020年を境に人口減少期に突入します。年少人口、生産年齢人口は毎年減少幅を広げながら減り続けることが想定されており、年金、医療、介護など社会保障に与える影響が大きくなっています。岡山市の総合計画策定にあたっての出発点ともなっているのは「少子高齢・人口減少」という現実を受けての持続可能な都市づくりであり、今後取り組む様々な政策、施策、事業における理念の柱として行政全体で共有を図っていく必要があるということは言うまでもありません。待機児童解消を含めた子育て環境の充実、そして生涯現役

時代にふさわしい雇用制度の構築とあわせて、シニア世代が健康で元気に活動できる環境をつくり、医療費などの財政負担の削減につなげるための予防、健康へのインセンティブ措置の強化など働き方改革と社会保障制度改革を同時にやっていくこと、さらにはこれまでのような行政だけによる取組みだけではなく、そこに企業や民間の視点や活力を取り込み、予算の効率的な利用を図る視点も重要になってきます。人口減少や人口構造、環境や条件が大きく変化する中で、未来に責任をもつ責任世代の一人として、しっかり議会で地域で汗を流し、声を発し、目に見える具体的な仕事をしていかたいと思います。

今年度も各定期議会や常任委員会の中で様々な提案や質問に立っており、9月定期議会は初当選から連続通算30回目の登壇ともなったところです。

この度の市議会だよりでは平成30年2月から9月までの定期議会における議論を中心にお伝え致します。お目通しいただければ幸いです。

### 高橋雄大(おかやま創政会) 代表質問項目 (平成30年2月～平成30年9月まで)

#### 平成30年2月定期岡山市議会

- 安心・充実の子育て・教育環境について
- 生涯にわたる健康づくりの推進とエイジレスに働く岡山市の実現について
- 消費者教育の推進とサービス産業での悪質クレーム対策について
- うらじやへの取り組みについて

#### 平成30年6月定期岡山市議会

- 特別な事情による予防接種の再接種について
- 子どもの貧困対策について
- 地域共生社会の実現に向けて
- SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)について

#### 平成30年9月定期岡山市議会

- SIBを活用した健康ポイント事業と生涯活躍就労支援事業について
- 子どもを虐待から守る取組みについて
- 消費者教育の推進とサービス産業での悪質クレーム対策について
- 平成30年7月豪雨災害を受けて

以下、議会質問から一部抜粋

### 健康へのインセンティブを高める。

シニア世代の皆さんと市内企業の雇用のマッチングを図り、健康で元気な生活環境となるよう応援する!  
民間の知恵や活力も借りながら、生涯現役社会を創ろう!

**Q** SIB——ソーシャル・インパクト・ボンドという新たな仕組みが注目されています。これは、投資家や銀行から集めた資金を活用し、民間事業者が行政の事業を行い、行政は成果に応じた支払いを行うという仕組みです。行政は成果に応じた支払いを行うことでより効果の高い事業執行ができる、市民の税金をより有効に活用することができます。

このような中、本市においても今後、SIBを活用した新たな健康ポイント事業、就労支援事業を行うこととしています。岡山市の取り組みが全国の先進モデルになることを期待しているところです。まず、健康ポイント事業についてはどういった分野の企業でどの程度の規模の事業を想定し、いつから開始されますか。また、成果指標としては現時点でどのようなものを想定されますか。そして、就労支援事業における対象者にはどのような方々を想定されていますか。またどのような企業や団体がコンソーシアムを構成し、いつから開始されますか。あわせて、成果指標としては現時点でどのようなものを想定されますか。

※SIBとは…SIB (Social Impact Bond ソーシャル・インパクト・ボンド) とは民間事業者が出資、融資等の民間資金調達により、事業を実施し、あらかじめ定めた成果指標の達成状況に応じて、市が事業費を支出するもの。



災害の被害を抑えるために、防災公園の存在が重要になります。地域の公園にも防災トイレや太陽光発電などを活用した照明施設、かまどベンチ、防火水槽など、防災整備の充実が必要ではありませんか。



**A** 本市では250カ所の公園を避難地候補場所としています。避難地は住民が緊急かつ一時的に避難し、避難所へ移動する際の集合場所に位置づけられており、他都市では、水や食料の配給場所や炊き出しの場、地域情報提供の場などに活用している例があります。公園が避難地として指定された場合には、地域の意見、公園の特性を踏まえ、防災設備の設置を検討してまいります。



今年の猛暑は災害といえるレベルとなりました。エアコンの設置でありますかが、まず中学校の普通教室というのを早目に達成していきたい。その次は小学校の普通教室と、ここまで議論が進んでいます。

そしてご存じのように小さな子どもほど熱中症のリスクは高くなります。幼稚園など就学前施設へのエアコン設置についても早急に実現すべきではありませんか。



**A** 平成30年の猛暑は、子どもの健康、安全管理への影響が懸念されるものでした。子どもの健康、安全を第一に考えていく必要があり、31年(2019年)の夏に間に合うよう、早ければ次の議会までにどのような対応ができるか検討したいと思います。

### 各小学校区などで 座談会を開催しています!

生活圏域となる中学校区や小学校区ごとに、それぞれ地域の声を伺う、生活の中での切実な声を伺う座談会を開催しています。ここで頂く質問やご意見が、次の議会での貴重な情報源、活動の源になります。身近な市政について、暮らしについて、未来のために今できる選択と一緒に考えていきたいと思います。



### おかやまマラソン2018を 完走しました!!

2018おかやまマラソンでは平成30年7月豪雨災害の復興支援に取り組みました。「がんばろう!岡山」のチャリティーゼッケンが販売され、そこにランナーがそれぞれの想いを込めたメッセージを書き込みました。



チャリティーゼッケンの販売代金は、EXPO会場での募金と合わせ、日本赤十字社岡山県支部を通じて平成30年7月豪雨災害の義援金として全額寄付されます。

今年も母と親子でフルマラソンを完走することができました。おかやまマラソン2018はおよそ16,000人の岡山市内外から集まつたランナーが参加し、またおよそ16万人の方々の沿道での暖かい声援や約5,400人のボランティアの皆さんに支えられ、大きな盛り上がりの中で素晴らしい大会として無事に終えることができました。

※高橋雄大の議会質問の詳細については、岡山市議会HPでご覧ください。

URL: <http://www.city.okayama.jp/gikai/>

### 平成30年7月豪雨災害発災後、各地で活動



災害発生後、とにかく現場の状況を把握したい、そして被災された方やボランティアセンターの方々、ボランティアに来られた方々のお話を聴きたい、そして議会での発信、行政との連携を通じて現場で起きている課題を解決したいという思いから、様々な現場を飛び回りました。改めて被災にあられた方に心よりお見舞いを申し上げますと共に1日も早くも通りの暮らしが取り戻せますことをお祈りし、あわせてそのためのあらゆることに汗をかいしていくことも同時にお誓い申し上げます。

この度の災害では、岡山市でおよそ7,700世帯の住宅への浸水被害などはもとより、市内の経済面、観光面にも影を落としています。市内外からの多くのボランティアの方々の力もあり、初期の対応から、生活再建支援、この度の教訓を活かした今後起こりうる大規模災害に対する備え等にしっかり取り組んでいくというフェーズに移行しつつある中で、直近の議会でも様々な視点から質問や意見があつたところです。

### 高橋雄大 プロフィール

現在37歳。法政大学法学部卒  
家族、妻、長男(5歳)、次男(1歳)  
岡山市議会議員(2期)  
会派 おかやま創政会 幹事長

総務委員会 副委員長  
活力と魅力あふれる区づくり調査特別委員会 委員長  
ファジアーノ岡山を応援する岡山市議会の会 幹事  
岡山シーガルズを応援する岡山市議会の会 会員

### 高橋雄大事務所(連絡先)

〒703-8271 岡山市中区円山107  
TEL: 086-277-9900 FAX: 050-3730-9606  
E-mail: [boasorte0411@gmail.com](mailto:boasorte0411@gmail.com)  
自宅 〒703-8266 岡山市中区湊112-1D101



**A**

SIB手法は高橋議員ご存じのように、株式会社の中間支援組織を中心としてコンソーシアムをつくります。そこに融資、出資などの民間資金を投入していきます。その中間支援組織が事業を行い、その成果に応じて行政から事業費が支払われていく。そして中間支援組織から民間資金が金融機関等へ還元される仕組みです。健康ポイント事業に関しては、運動、栄養、食生活、社会参加などの生活改善メニューを民間企業が広く提供していく、そして生活習慣改善を図っていくこと、具体的にはフィットネスクラブ、スーパー、飲食店などを想定しながら、地元企業を中心にヒヤリングを行い、組織化していくことをとrogenでございます。事業開始時期については、10月をめどに出資や融資を受ける中間組織と契約し、平成30年度後半に参加者募集を行い、平成31年度当初の事業開始を目指しているところであります。

生涯活躍就労支援事業については、まず高齢者の方を対象として開始し、

## 意見

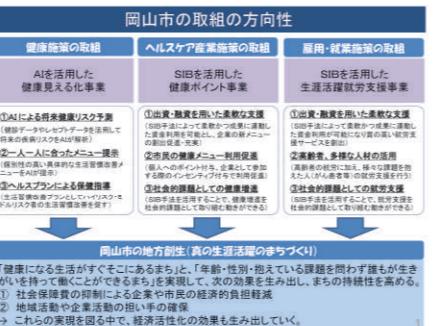
岡山市でも人口減少が迫ってきているという中で、民間企業の様々な活力を借りながら一緒に行政事業を行っていくという視点はこれから必要不可欠になってくると思います。その上で、生涯活躍就労支援事業については、まずは高齢者の方を対象として開始されます。その後、ひとり親世帯などにも対象を広げていかれることがありました。「子どもの貧困」に対する行政的なアプローチというものは色々な角度からの様々な施策の組み合わせが大事だと思いますが、仮に一つに突き詰めて対応しようとするならば、やはり就労支援だと思います。なおかつ50%を超える高い貧困率の母子世帯のお母さんへの支援。そしてなぜ母子世帯の貧困率が高いかと言えば、圧倒的に高い非正規雇用率にあると思うんです。ですからこれまで母子世帯のお母さんが正規雇用となるための、あるいはそれに近い形で就労ができるような行政サポートをしていくことが、一つの子どもの貧困対策の核になるんじゃないかなというお話をこれまでもしてきました。

また、「ひきこもり」の課題についてもこれまで取り上げてきました。39歳までという青年世代に絞っても全国で54万人と推定されていて、単純に割り戻しても、岡山市にも相当の数がいらっしゃると思います。こういうところにもしっかりと光をあてて、一人でも多くの就労サポートをしていくことが、生産年齢人口が下がる中で、これから必要な視点だと思います。是非、今後、シニア世代の方々の雇用のマッチングと同時に様々なハードルを抱えつつも、働く意欲をもち、きっかけを求めている人たちに対し、この生涯活躍就労支援事業の対象にいちはやくしていただくことを期待します。

## 結果として

SIBを活用した健康ポイント事業については平成31年度からの事業開始。

SIBを活用した生涯活躍就労支援事業については平成31年度夏ごろからの事業開始を目指すこととなりました。



## サービスを提供する側と受けける側がともに尊重される消費社会をつくるために!

**Q**

まず、一般的なクレームとは、提供される商品やサービスなどに関して消費者の方から不満が起こり、会社、小売店の店舗などに責任ある対応を求められることであり、こうしたことは消費者の意見やニーズがわかるアンテナとなり、品質やサービスを向上させるための有益な情報として誠意ある対応をしていくことが基本的な姿勢として求められることは言うまでもありません。しかしながら近年、さまざまな事業所で、謝罪時の長時間の拘束や土下座による謝罪の要求、人格を否定する暴言、威嚇、居座りなど、明らかに社会通念上許される範囲を超えて行われる悪質クレームが存在することも確かであり、このような不当な要求はハラスメントの新たな領域としても社会的な問題となっています。とりわけ、流通・サービス産業は、こうしたことが起因していると考えられる退職者の増加や対応の難しさから、働く場所として敬遠される傾向も出てきています。また、これらの業界にとどまらず、人と接するあらゆる産業、業種の現場にこうした課題があり、全ての生活者、労働者にかかる課題であると言えます。深刻な経営損失や労働者への過度な負担を減らすための取り組みが各方面で求められているところであります。こうした背景から、厚労省においては、今年度設置した職場のパワーハラスメント防止対策についての検討会において、顧客によ

るハラスメントについて検討項目として取り上げる方針であるということです。



平成24年に消費者教育の推進に関する法律が制定され、本市においても、平成29年度に岡山市消費者教育推進地域協議会が設置され、先日、平成30年度から34年度までを計画期間とする岡山市消費者教育推進計画の素案について議論されたと認識しています。この中では、振り込み詐欺や特殊詐欺対策の推進、学校教育における取り組みや地域や関係団体との連携のほか、ライフステージに応じた多岐にわたる教育メニューが示されています。しかしながら、いわゆる悪質クレームの発生を抑止し、倫理的消費行動を奨励する教育プログラムに関する記載は見当たりません。サービスを提供する側と受けける側がともに尊重される消費社会をつくるためには、悪質クレームの事例情報を消費者教育の場で共有し、倫理的な消費行動を促すプログラムを掲げ実施し、あわせて情報発信等啓発活動についても推進するなど、この問題に対する対策を強化すべきと考えますが、御所見を伺います。

事業を実施してまいります。また、岡山市消費者教育推進地域協議会の委員には事業者の代表も含まれておりますので、協議会の中で事例情報の共有化を図り、その議論も踏まえて各種事業を展開してまいります。

(荒島茂樹市民生活局長)

**A**

消費者教育の対象は、消費者の自立を支援し、被害者にならないための教育にとどまらず、悪質クレームや安易な情報発信の未然防止など、「加害者にならないための教育も含まれております」公正な取引について学ぶ消費者教育など、消費者としての責任について自覚を促す各種

**Q**

労働界では、小売り、飲食、レジ業務、クレーム対応スタッフなど、現場で接客対応されている労働者を対象に5万件を超える悪質クレームの実態調査を行いました。こうした大々的な実態調査の事例というのは他にはありません。業種別、年齢別、性別ごとにどんな実態があるのかということが非常に多くなっていますので、是非、このような調査結果も地域協議会のご議論や出前講座、各種プログラムの中でひとつの教材としてご活用いただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(荒島茂樹市民生活局長)

2

## 産前から産後、育児までを一体的に支援する

## 「おかやま産前産後相談ステーション」を各保健センターへ設置へ。

専門職の方々の常駐によって、安心、充実の子育て支援環境を。

**Q**

産前から産後、育児まで一体的に支援する窓口であるおかやま産前産後相談ステーションは、助産師さんなどの専門職の方が常駐する本市の子育てのスタート支援の拠点として機能しており、今年度の来所相談や電話相談は昨年度の2割増し、ステーションからリスクを抱える妊産婦へアプローチした回数は昨年度の3割増しとなっており、着実に市民に浸透しつつあり、子育てに関する不安や課題を早期に把握し、支援につなげる役割を担っています。



私の前回11月定期議会での議論を経て、来年度からは各保健センターにもステーションを設置し、妊娠届け出時の専門職による面談を行い、妊産婦のそれぞれの抱える課題やニーズに対応したオーダーメードの個別支援プランを提案する体制をつくるなど、機能強化を図ることとしています。

まず、これまで各保健センターには、専門職の方が配置され、面談が行える体制はあったと認識していますが、今後各保健センターにおかやま産前産後相談ステーションが設置されることによって、従来と比べ、どのように妊産婦の方への支援強化が図られるようになるのか、具体的にお示しください。

現在、専門職が常駐しない窓口を含め、市内37カ所の妊娠届け出窓口があります。今年度の全妊娠届け出時の専門職による面接の割合について御説明ください。

**A**

現在、専任の助産師3名が保健福祉社会館に勤務し、相談を行っておりますが、ことしの秋から拡充していかたいと思っています。

具体的には、各保健センターに助産師さんを1名ずつ配置し、市内6カ所体制になるということです。従来は、各保健センターには保健師さんがおられたわけですが、ここで助産師さんが配置されるということで、妊娠、出産に関するより具体的なアドバイスが得られ、相当専門的な相談がしやすくなるだろうと思っております。また、不安を抱えている妊産婦の方には相談ステーションから積極的に電話をかけるなど、そういう双方の相談もやっていきたいということです。妊産婦の皆さん方にはぜひ御利用をお願いしたいと思います。(大森雅夫市長)

産前産後相談ステーションについては、産科医療機関での対面説明や妊娠届け出書裏面での紹介を実施しています。今年度の届け出件数は12月まで約1,300件となっており、保健センターを加えた専門職による面接割合は、相談ステーション設置前の平成27年度32.1%に対し、64.5%と増加しています。(森安浩一郎保健福祉局長)

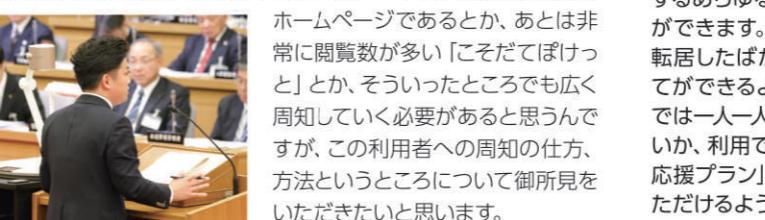
**A**

産前産後相談ステーションの周知についてでございますが、やはり妊娠届を出すときが一番の契機かと思います。そういう意味では、産科婦人科の医療機関への周知、それから連携、そして妊娠届け出際の注意事項とかで明記して周知を図っていくことが一番かなと思います。また、それ以外にも、広報紙などを活用してしっかり周知に努めてまいりたいと思います。(森安浩一郎保健福祉局長)

## 結果として

岡山市では、妊娠、出産、育児に関する専用相談窓口として、「おかやま産前産後相談ステーション」(通称:さんさんステーション)を平成28年9月から岡山市保健福祉社会館に設置しています。この度複数回の議会での議論をうけて、より身近な場所でご利用いただけるよう、平成30年10月1日から市内5保健センター内に増設しました。

「さんさんステーション」では妊娠届出時から産後にかけて、妊娠、出産、子育てに関するあらゆる悩み事や質問などを、助産師などの専門職と顔を合わせて相談することができます。昨年度には、延べ3000人余りの方にご利用いただきました。岡山市に転居したばかりでどこへ相談すれば良いかわからない…という方でも安心して子育てができるよう、さまざまなもの立つ子育て情報を提供します。また、このステーションでは一人一人の状況をふまえて、妊娠中から産後の育児に関し、いつ頃、何をしたら良いか、利用できるサービスは何かなど、分かりやすく一覧にした「妊娠期からの子育て応援プラン」の提供を新たにスタートしました。安心して妊娠、出産、子育てをしていただけますように、「さんさんステーション」をぜひ、ご利用ください。



## 9月定期議会における会派代表質問、平成30年7月豪雨災害関連の補正予算について

**Q**

浸水対策についてお聞きしますが、この計画の見直し完了までのスケジュールについてお聞かせください。

市長の所信で言われたポンプ場整備の地区のほかにも内水対策整備が急がれる箇所があると思います。これも具体的にお聞かせ願いたいと思います。

**A**

岡山市浸水対策基本計画、行動計画の見直しスケジュールについてですが、岡山市浸水対策推進協議会を10月から数回開催し、外部有識者の意見もいただきながら案を作成し、パブリックコメント経て、今年度末までに見直し作業を終えたいと考えております。

次に、その他の内水対策整備が急がれる場所についてですが、先ほど申し上げました行動計画の見直しを行う中で検討していくこととしております。



### 平成30年度9月補正予算(7月豪雨災害関連)の概要

× 平成30年7月豪雨によって被害を受けた、河川堤防から、河川堤防をはじめ浸水対策を重点的に、既存予算や予備費の方法で実施してきましたが、被害の合意や被災された方々の心の問題がまだいたどを避け、他の財政措置も並行して、緊急対応で執行した既存予算の問題も含め、十分整理して予算を提出します。

× 公共施設等の復旧や災害ごみの迅速な処理、防災対策の強化に全力で取り組みます。

補正予算額 一般会計 (億円)  
国・県支出金 40億7,500万円  
市町村支出金 24億7,000万円  
その他 5,042万円  
一般財源 25億7,046万円(財政調整基金から繰入)

主なもの	被災者の生活再建支援		
	災害復旧金支給・復旧資金貸付	災害対応費用負担金	社会的支援
公共施設等の復旧	38億5,411万円	5,042万円	
農林・漁業の復旧	52億6,377万円	25億7,046万円(財政調整基金から繰入)	
防災対策の強化			